

社心グループの皆様へ

平成9年3月26日（中塚義実）

ご無沙汰いたしておりますが、皆さんご機嫌いかがでしょうか。

3月は、年度末のあわただしい中、日程があわず、会合を開くことができませんでした。定例会を楽しみにしていた方（私自身もそうですが）には申し訳なかったと思います。平成9年度も、月1回の「情報交換会」を続けていきたいと思いますが、年度のはじめに当たって、これまでの流れを整理しつつ、皆さんのご意見をいただきたいと思います。まずは、以下をお読みください。

1. 社心グループの始まりについて：実働部隊としての機能

もともと社心グループは、「日本サッカー協会科学研究委員会」及び、そのメンバーが中心となって進めている「サッカー研究会」のサブグループとして、各種研究プロジェクトを進めていく実働部隊として誕生し、機能してきました。この機能は、今後とも継続していく必要があります。平成9年度も「サッカータレントの発掘方法に関する研究」と、「地域における一貫指導システムの構築に関する研究」は、サッカー協会から予算をもらって動いているプロジェクトで、社心グループが中心になって進めていくことが期待されています。これ以外にも、例えばクラブユース連盟の大会がJヴィレッジに移ることを契機に、Jヴィレッジでの大会のあり方や、夏の暑い時期に行われる育成期の大会のあり方なども調査研究を進める必要があり、社心グループでもその一端を担うことになろうかと思えます。このように、もともとこの研究会には、研究プロジェクトを進めていく実働部隊としての任務が負わせられているという事実をご了解ください。

2. 月例会について

もともとは上記のような趣旨で始まった実働部隊としての社心グループではありますが、参加者のレベルアップを目指して、月1回の勉強会をするようになりました。定例でやっていくうちに、話題は多様化し、それにともない仲間が仲間を呼び、気がつけば職種を超えた、多種多様な方が大勢集まる非常に珍しい、楽しい会に発展していました。

サッカーを取り巻く環境が多様化し、いろんな種類の人間がサッカーに関わるようになってきたことも一因だろうと思えます。サッカーが日本におけるメジャースポーツの一つになり、ある時期沈んでいたサッカーおやじがよみがえったという見方も可能でしょう。いずれにしても、サッカーの、あるいはサッカーを取り巻く社会科学的な（学問的な分類はともかく、ニュアンスとして感じ取ってください）話題で盛り上がる、自由参加の会はほかにあまり見当たらないという点が、これだけ多くの、多様な方が集まるようになった原因であろうと思えます。ちなみに、今回は参加したいというテレビ局の方もあり、ますます発展していきそうな勢いです。これが平成8年度の傾向で、これからも続いていくであろう流れです。

3. 平成9年度へ向けて

実働部隊としての機能と、月1回の情報交換会を共存させながら、両者の質を高めていくことがこれからの課題です。そこでは、気軽に参加できる情報交換会と、質の高い研究

プロジェクトの遂行という難しい課題をこなしていくということになります。そこで、以下の提案をさせていただきたいと思います。皆さんの意見をお聞かせください。

- 1) 「社心グループの会合」と呼んでいた月1回の情報交換会は、従来通り続けていく。それぞれの職域、興味範囲で得た話題を持ち寄って、情報交換・ディスカッションする会として継続していきたい。
- 2) 情報交換会の名称を、「社心グループ」とは別に、何か気の利いた名前に変更したい。気の利いた名前を募集します。中塚までお寄せください
- 3) 情報交換会の日程と場所を、毎月同じ時・ところに設定したい。
翌日のことを考えると、金曜日か土曜日の夜がいい。ずばり、毎月第3金曜日というのではどうでしょうか。これでいくと4月18日が平成9年度の第1回となります。時間帯はPM6:30~9:00。9時以降、場所を変えて第2部というパターンが望ましいと思います。
場所はお茶大体育館2階杉山研究室で行なっていますが、どこかほかの場所がいいのではないかという杉山先生の意見もあります。どこかありませんでしょうか
- 4) 実働部隊としての「社心グループ」は存続する。

あるプロジェクトごとに、「この指とまれ」方式で人集めをして、そのメンバーが中心になって研究を進めていくこととする。従って、情報交換会とは別に、プロジェクトに関わる者の会合が開かれるということになる。情報交換会に出ている人にノルマが課せられるということはないのでこちらには気軽に参加していただきたい。ただ、研究プロジェクトからの話題提供という形で月1回の情報交換会に出すこともあるし、興味ある人には、職域を問わず、研究プロジェクトに参加していただきたい。

以上、中塚案ですが、いかがでしょうか。できれば、メール等でご意見いただきたいのですが、4月の定例会にも、本年度の計画を話し合いたいと思いますので、その時にご意見をお持ちよりください。

とりあえず次回は、上記案のまま、4月18日(金)PM6:30 お茶の水女子大体育館2階杉山研究室(TEL:03-5978-5273)で行ないたいと思います(会場等の変更があるかもしれません。その際は連絡します)。内容は、以下のとおりです。

議題1. 平成9年度の進め方

話題1. スポーツ社会学会報告(高橋氏の発表報告/2002年ワールドカップに関するシンポジウム報告など)

その他、提供できる話題があれば、中塚までお寄せください。

昨年度、「社心グループの定例会」として行なっていたものを、本年度は発展的に解消し、新たに「サロン2002」という名称で、毎月第3金曜日の夜、6時半～9時まで、お茶の水女子大学で行ないたいと思います。旧社心グループへの参加者の方はどうぞお気軽にサロンへ遊びに来てください。

当面、2002年までの期間限定的活動ということになりますが、ここでいう「2002」は、その後のあり方も含めたものとしてとらえていただきたいと思います。基本的には情報交換会ですが、このサロンで得た情報やアイデアは、それぞれの現場で大いに活用していただくことと、できれば何らかのメディアに載せて広く伝えていきたいと思います。

今回は5月16日(金)6時半～9時。

場所は、お茶の水女子大学文教育2号館216号室です(いつもと異なるのでご注意下さい)。

メインテーマは、タイムリーなところで「サッカーくじ」です。昨年度の体育学会での発表を中心に、高橋義雄氏に話題提供者となつていただき、参加者全員によるディスカッションという形で進めたいと思います。この件に関する情報なら何でも結構ですので当日お持ち下さい(資料の場合は20部程度必要)。

なお、メインテーマ以外にも、30分ほど情報交換の時間をとりたいと思いますので、提供できる情報がありましたらお持ち寄り下さい。

欠席の場合、あるいは提供できる情報の有無等あらかじめわかりましたら、中塚までご連絡下さい(自宅E-mail: BXR02275@niftyserve または tel/fax03-3968-0896/筑波大学附属高校 tel03-3941-8286(筑波大附属高校体育科直通)または fax03-3943-0848)

当日の緊急連絡先は、6時半まで tel/fax03-5978-5273(杉山研究室)、9時以降カリンカ tel03-3945-2396 です

なお、6月以降の日程と主な話題は以下のとおりです。6月につきましては、仲澤眞氏による、英国とアメリカにおける実態調査報告にたっぷり時間をとりたいと思います。乞うご期待!

6月20日(金) 話題提供: 仲澤眞氏(筑波大学)「観戦文化に関する調査報告」

7月18日(金) テーマ(案)「Jクラブの運営を考えるー観客動員を中心に」

8月 夏合宿予定

9月19日(金) テーマ(案): 「Jヴィレッジとその活用法」

10月17日(金) テーマ(案): 「ワールドカップと日本サッカー」

11月21日(金) テーマ(案): 「育成期のサッカーについて考える」

東京都高体連サッカー科学研究会と共同開催(?)

12月19日(金) 忘年会(?) 1月16日(金) 新年会(?) 2月20日(金) 3月20日(金)

以上

お待たせしました。サロン2002のご案内です。8月は定例会はお休みし、そのかわりJヴィレッジで合宿を行ないました。10名(+2家族)の参加者による活発なサッカー談議は、深夜4時まで及びました(概要は次回簡単に報告します)。

定例となっている第3金曜日がワールドカップ予選の対UAE戦(於アブダビ)当日となっているため、9月の「サロン2002」は日程をずらしました。場所もお茶大ではなく、道路を隔てた向かい側にある筑波大学附属高校で行ないます。今回のテーマは、夏合宿でも取り上げられた「2002年ワールドカップの活用法―出場チームのキャンプ地として」についてです。皆さん奮ってご参加下さい。

記

日時：9月18日(木) 6時半～9時すぎ

場所：筑波大学附属高等学校3階会議室(直通 tel03-3941-7432 体育科直通 03-3941-8286)

(有楽町線護国寺下車徒歩7分または丸ノ内線茗荷谷駅下車徒歩8分：お茶の水女子大裏。

校門を入れて直進。体育教官室＝洗濯機の置いてある部屋から校内に入り3階へ上がる)

→その後カリンカにて飲食(tel03-3945-2396)

テーマ①2002年ワールドカップの活用法―出場チームのキャンプ地として

ワールドカップの試合会場として10自治体が選定されたが、チームのキャンプ地についてはようやく事の重大さが認識されはじめたところである。大会期間中のチームの滞在のために自治体はどのような準備をしなければならないのか。また、大会前のキャンプについてはどのような可能性があるのか。考えようによっては、ワールドカップの試合を開催するよりもはるかに大きなプロジェクトになり得る「出場チームのキャンプ」について、前向きな高知県(2002年に国体を開催する)から県の関係者をお招きして、具体的に検討していこうという企画です。

テーマ②日本代表の監督にジーコを

2002年の代表監督はこの人しかいない！皆さんはどう思いますか？
筑波大学の西嶋先生からの問題提起です。飲みながら語りましょう。

今後の予定(テーマのみ。場所未定)

10月17日(金) サッカーを取りまく職業について―プロ選手のセカンドキャリアを考える

JPA(Jリーグ選手協会)の大場さんからの問題提起

11月21日(金) ユース(以下の)年代のサッカーを考える

中塚からの問題提起。東京都高体連サッカー科学研究会と共催の予定です

12月19日(金) 内容未定

このほかにも、話題は随時受け付けますので、どしどしご応募下さい 以上

1998 1/3

<問題提起―“サロンの法人化”へ向けて>

以下は、『学校体育 1998.12 月号』に掲載予定の、サロンの紹介記事です。まずはご一読ください。

サロン 2002 は、サッカー(スポーツ)がたまらなく好きで、日本のサッカー(スポーツ)を何とかしたいと思っている人が、打算抜きで集まる会です。年齢や性別、職業や専門分野にはこだわりません。月1回、筑波大学附属高校で行われる例会には、スポーツの研究者や指導者だけでなく、クラブ経営に携わる人やビジネスとしてスポーツに関わる人、新聞・雑誌・書物・テレビ・インターネットといった各種メディア関係者、競技団体関係者やサポーターなど、サッカー(スポーツ)の広がりそのままに、多種多様な人が集まります。現在、約100名の方にメールで案内を送っており、毎回約20名ほどが参加します。

サロン 2002 の本格的な活動は1997年度から始まりませした。「サッカーくじ」「サッカーを取りまく職業―プロ選手のセカンドキャリアをどう考えるか」「ユース年代のサッカー」など、テーマを設定してのディスカッションを行ったり、ビジネス現場の方に「スポンサーからみたFIFAワールドカップ」について報告してもらったり、テレビ局のサッカー番組製作担当者から「サッカーをテレビでどう伝えるか」について話題提供してもらうなど、研究者だけでは得られない新鮮な、生の情報がここにはあります。

問題点として挙げられるのは、サロンの成果が十分な形で外部へ発信されていないことです。また、様々な「現場」に具体的に働きかける際にも、任意団体では限界があります。これらを解決するためにも事務局機能を強化し、確固たる組織として自立することが不可欠です。現在、NPOとしてのサロンの法人化を検討中です。

全国各地にサロンの輪を広げ、地域や分野の壁を越えた横のネットワークを広げていきたいと思います。サロン 2002 は、21世紀の日本社会を築き上げる仲間の輪を広げていく運動なのです。

「来る者は拒まず、去る者は追わず(時には追う)」の基本精神に基づき活動を進めていくうちに、どんどん仲間(会員?)が増え続けているのがこの会です。テクノロジーの進歩により同報通信が可能であることが、100名以上の方に一気に案内を送る際に助かっています。しかし、その簡便性ゆえに、組織として整備されないまま会は巨大化し、潜在的エネルギーを秘めながら、必ずしも良いアウトプットにつながらなかったのがこれまでのサロンだったように思います。「記録」をとることや「名簿」をつくること、「会費」を徴収することや「会則」をつくることは、何度となく話題には上っていたのですが、具体化することなく今日に至っています。

サロンの魅力、潜在的パワーについては、一度でも参加された方ならよくわかることだろうと思います。大げさなことをいうと、サロンは日本のサッカー界にとどまらず、スポーツ界全体の改革の旗手となりうる存在です。もっと言うと、日本人の意識改革、社会変革の基点になりうると思いますし、アジアの、そして世界の、スポーツ界におけるオピニオンリーダーとなることも可能です。それぐらいの潜在的なエネルギーを持っていると思います(話が大きすぎますが、こういう話は大きい方がおもしろい)。

各方面から集まる情報と人材のネットワークを構築し、市民レベルから政策決定レベル

まで、シンクタンクとしてサロンが幅広く機能することを考えています。これだけの人材が、打算抜きで集まる会はそうめったにありません。様々な分野の方の情報を収集・整理し、必要とされる現場へ提供していくことがサロンの使命ではないでしょうか。もちろん提供しておしまいでなく、いくつかの事業については実際の運営にも携わることになるでしょう。そしてこのような道を選んだ場合、“サロンの法人化”は必然であろうと思います。

この件について皆さんのご意見をいただきたいと思います。どんな意見でも結構ですので、中塚までお寄せください。私なりの案もあるのですが、まずは皆さんから広く意見を募り、それらをもとにして検討していこうと思います。

月例会とは別に、近々「サロン法人化検討委員会(仮称)」を発足させ、意見交換の場を持ちたいと思います。これについても意見をお寄せください。

(文責：中塚義実)

1998.11.4.

「緊急サロンのご案内」

先に送信した月例会案内でも触れましたが、横浜FとMの合併問題に関して、緊急にサロンを開きたいと思います。情報交換と、サロンとしての対策の検討になりますが、具体的には

- ①今回の問題の原因はどこにあるのか
- ②今回の問題に関してサロンとして何かできることはないか、
- ③今後、どこへ、どのような働きかけをしていくべきか

このような内容になろうかと思います。突然で、しかも緊急ではありますが、時間の都合のつく方、何とかしたいと思っている方は、以下の日時・場所にお越し下さい。あくまでも個人の自由意志に基づく、個人の立場での参加を求めます。

記

日 時：11月6日(金) 午後7時～9時

場 所：筑波大学附属高等学校3階会議室

(会議室 tel 03-3941-7432/ 体育科 tel 03-3941-8286/ 中塚携帯 tel 010-423-9289)

(有楽町線護国寺下車徒歩7分または丸ノ内線茗荷谷駅下車徒歩8分：お茶の水女子大裏)

校門を入れて直進。体育教官室＝洗濯機の置いてある部屋から校内に入り3階へ上がる)

→その後カリンカにて飲食(tel03-3945-2396)

サロン 2002 のこれから(案)

1999.2.16.

その後いかがお過ごしでしょうか。2月4日に文書を送信して以降も、多くの方からサロン 2002 のあり方についてご意見をいただきました。2月の例会の前に一度整理して、すぐにできるものについてはさっそくはじめたいと思います。またまた長文ですが、おつきあい下さい。

まずは、前回の案内で提示した、中塚からの原案です。

1. サロンの法人化について

時期尚早であるが今後も検討を続ける

2. 会員制について

- 1) 1999 年度より会員制をとるべく準備を進める…会員資格/年会費など
- 2) 1999 年7月までに「サロン 2002 名簿」を作成する
- 3) サロンのメーリングリスト(以下ML)を開設し、会員が情報を共有できるようにする

3. 月例会について

- 1) 月例会はこれまで通り、誰でも参加できる自由な情報交換の場とする
- 2) 2月より月例会参加費を徴収する。参加費は 1,000 円(?)
- 3) 参加費の使い道…謝金、実費、事務局経費など
- 4) 月例会の様子はテープに保存する

これらについて、皆さんから出された意見を織り交ぜながら検討を進めます。

1. サロンの法人化について

様々な意見がありましたがおおむね「現時点では時期尚早」でした。今後継続して議論を進める必要があると思います。

サロン 2002 の「あり方」「組織化」については以下のような意見がありました。

「法人化すれば、あくまでサロンのものを求める人達は分派するでしょう。またそれもよし。肩書きなしで好きな話で交流する場ってのは魅力です」

「サロン 2002 の目的がまだよく飲み込めません。目的と活動内容が、他から見て明確でないとの賛同は得られにくいのではと感じています」

「現在の様に、中塚さんにおんぶにだっこの組織では、中塚さん自身の負担が大きすぎますし、中塚さんが何らかの理由で活動できなくなった場合運営が行き詰まります。逆に言えば、サロンによって中塚さんの行動範囲を制限することは誰にとっても本意でしょう」

「外部に情報を発信するとなると、様々な反応が返って来る事は必至なので、更に人出が必要になるでしょう。従って、数人の事務局員を募り、作業を分担するべきだと思います。定期的に活動する有償の事務局員の他に、時間がある時に手伝いをする無償のボランティアは、イベントの時などに便利でしょうし、志願者も多いと思います」

「法人化イコール組織化であること(目的は何であれ)、そして・お金がからむこと、基本的にこの2点につきます。組織化は、人事の問題が発生するという。トップとその周辺と事務局体制をどうするのか?この法人がうまく進行してなければ、周囲の関心も薄く、いいのですが、ある業界で注目を浴びることになると、これが大変です。権力闘争のはじまりとなるからです。いわゆる主導権争いという奴です。そして、組織が大きくなると派閥ができます。また、主導権争いのタネとなります。この組織をどのように統率するかは、トップの多岐な政治能力にかかっております」

「私の個人的な感想と提案であります。当面はサロン 2002 はサッカーの「松下村塾」で、中塚さんはサッカーの「吉田松陰」の立場でよろしいのではないのでしょうか?サロン 2002 を基本に、色々な人材と言論を生み出す場となることを目的にされた方がよろしいかと思ひます。そのために、塾長である中塚さんのご苦勞は大変なことです。徐々に周囲の協力を得られるような体制にされた方がよろしいかと思ひます。まず、第1弾としては「私塾」としての運営経費は、学費として徴収された方がいいと思ひます」

社会への働きかけという点では、行政とのパイプは重要です。サロン 2002 には文部省のサッカーくじ担当者もいらっしゃいますが、その方からは、「くじの収益配分などで、サロンの意見を反映で

きる。これは、具体的にどこに配るかという意味ではなく、どのような所が、どのようなお金を必要としていて、スポーツ文化の真の振興のためには、このように使うべきなどの意見の意味です。法人化の議論の中で、サロンが“シュートまで”するためにはという意見がありました。ことサッカーくじに関しては、私が参加することでクリアしたことになるのかも知れませんが、との力強い意見もいただいています。近々月例会で取り上げたいと思います。

2. 会員制について

1) 1999年度より「会員制」をとるべく準備を進める

「会員資格の前に会の規約を設ける必要があります。つまり会の目的です。その目的を各自が共有しなければなりません」。この意見に尽きると思います。「年会費 10,000 円」という試案については、「ちょっと高すぎる気がしますし、確実に集めることが難しい年会費に収入を依存するのは危険だと思います。年会費導入によって、現在の 134 名はかなり少なくなる事も予想されます」という意見がありました。問題提起の意味でこのような数字を出してみました。サロンが何をするとするところなのかを明確にした上で算出すべきだろうと思います。

会員資格の問題も、サロンの目的と事業・活動に応じて決められることですが、いくつかご意見をいただきました。「当事者度」に応じた様々なかわり方という視点で、「①事務局：言うまでもなく運営の中心、②月例会参加者：濃い当事者、③会員：薄い当事者、④ホームページを見る人／うわさを聞く人：傍観者、中には当事者候補もいる」との分け方を提案する方もいました。

電子メールを会員資格に含めることについては、「これから必須のツールなので、資格としてもよいと思います。各自それをできるようにするぐらいの熱意が必要です」との意見がありました。ただ、134 名中 48 名に FAX で情報を流している現状を考えると、これを会員資格とすることは、メンバーの切り捨てにつながり兼ねませんので、「努力目標」にとどめ、当面は原状のままでいきたいと思います。FAX で案内を受けておられる方で、実はメールでも OK なのだという方がいれば至急ご連絡下さい。前回の案内にも書いたとおり、FAX だと余分にお金がかかります(1枚につき 40 円)。経費節約のためにもよろしく願います。

2) 1999年7月までに「サロン 2002 名簿」を作成する

名簿については、「名簿は悪用しようとする外部の業者がたくさんいるので、会員のアドレスだけを送信するだけでよいと思います」との意見だけでした。もう少し多くの方の意見を聞いた上で判断したいと思います。

3) サロンのメーリングリストを開設し、会員が情報を共有できるようにする(一部表記訂正)

現時点での情報のやり取りは、ほとんど全て中塚を経由して為されています。サロンのあり方に関しても、メンバーの方からの意見は中塚に届けられ、それを整理した上で、メンバーの方に送信する方法です。全体を把握しやすい反面、手間がかかり、情報操作が可能になってしまう危険性が、デメリットとして指摘できます。

メーリングリストとは、個人の発信した情報を、参加者全てに同時に送ることができるシステムです。このような、閉じた、濃いネットワークも必要ということで、プロジェクトチームが編成され、浜村真也氏と松下徹氏が中心になって検討を進めてくれています。中間報告として、「サロン 2002 メーリングリストの提案」がありましたので、別紙にて送信します。

3. 月例会について

1) 月例会はこれまでどおり、誰でも参加できる自由な情報交換の場とする

「開かれたネットワーク」としての月例会はこのまま続けていきたいというのがほとんどの方の意見です。月例会をサロンの活動の核としながら、継続していくことを一つの目標として、今後ともすすめていきたいと思います。

「平日の夜だと仕事の関係で出席できない人が多いと思います。そこで、2~3回に1回は、もう少し広い会場で休日に月例会を行う」という提案もありました。時には場所を変えて、時には泊まり

がけで、様々な形態で「サロン」を開きたいと考えます。くせになりそうな「出張サロン」は、現在、静岡県掛川市と、新潟市あたりが招致活動を細々と展開しています。地域の活性化、人材発掘のためにも、こういった活動を展開していきたいと考えます。

サロンには学生や大学院生も多数参加しています。彼らにとっては社会人との接点でもあるし、他大学の学生との交流の場でもあります。そこで、これをもっと活用し、学生諸君に大きく羽ばたいてもらおうと、「学生サロン」(または「学生出張サロン」)を考えました。基本的にはサロンに参加している学生が対象ですが、「今時の学生」たちと語ってみたい社会人も参加して、月例会の学生版のような活動をやってみたいと思うのですがいかがでしょうか？

2) 2月より「月例会参加費」を徴収する。参加費は1,000円(いかがでしょうか?)

金額については、500円や1,500という意見もありましたが、おおむね提案通り1,000円で受け入れられています。もちろんこれは、支出との兼ね合いでもあります。

3) 参加費の使い道は、1) 話題提供者に支払う謝金1万円。複数の場合は1万円を分割、2) 通信費・テープ代・用紙代など実費、3) 事務局経費 4) もし残ったらプール

徴収された参加費の使い道についてはいろいろな意見がありました。

「発表者に対し1万円というのは高すぎる気がする。準備等にも費用や時間がかかっているだろうが、それに対する気持ちにしてはそれを超えた金額ではないだろうか。個人的には@3~5000円でいいと思う。一万円ももらおうと発表者への精神的負担が大きくなるのと、場合によっては発表内容と金額に隔たりが出てしまうかも。もらう側も負担にならない金額がいい」

「共同での発表でないならば、当然複数いてもすべて同額にすべきです(1万円でよいのでは)。通常のビジネスレベルであれば安すぎます。特に会員以外の場合は別途3万円ぐらいの規定をつくってもよいのではないのでしょうか」

いろいろな見方がありますが、謝金については、基本的に原案どおりでいきたいと思います。但し、ディスカッションを目的とする場合など、“謝金”にはなじまない回もあろうかと思しますので、柔軟に対処したいと思います。

事務局経費についても様々なとらえ方がありました。会員制の問題やサロンの目的・事業とも関係してきます。

「事務局の仕事を学生アルバイトに頼んだ場合の時給を考えたら良いでしょう。好きな人がやっているという点を考え、世間相場より少し安めに見ると、大体¥1,000/hr程度ではないでしょうか。中塚さんが毎月実際にサロンの活動にかけている時間と、今後必要となる、例えばテープ起しの時間を予想し、先程の時給相当額をかけた額が月当りの人件費となります。更に通信費、テープ代などの実費と謝礼を加えたものが総支出です。収入は、会員全員から取る年会費、サロン参加者から集める参加費等、バランスを考えながら、総支出をカバーする金額を集めてはどうでしょうか」

「費用としては、事務費用(事務局員を雇うのも含め)は最低回収しますが、他のメンバーはノーペイが通常のように思います。特に個人が自分の時間を消費する事に対する対価はないと思っています。それをベースに考えると、事務費用は、調査研究や雑誌寄稿、出版等の収入でまかなう事がまず考えられます。その他、事業に賛同頂ける企業からスポンサーになってもらうとか」

「当事者への会費徴収とともに、基金や募金、NPOやティアアップスポンサーなど色々な方面からの資金繰りができる柔軟な体制で望める様にこの“会費”については検討していきませんか？。お金に対し明るい方に専任していただき“予算分科会”などを招集して検討する方法もあり。このサロンのメンバーは、その様なことができうるチームでしょう？得意な人が居ると思いますよ」

「プロジェクトによる資金調達を考えることで、財政基盤の整えづらい任意団体という現状においても、スポンサーにとって魅力ある企画を提示できれば、実行していくことは不可能ではないと思います。皆さんのズノウを持ってすれば、ユニークな企画の立案自体はさして難しいことではないかもしれません。問題はその企画を売って歩けるコネとノウハウを持った“営業マン”がいるか？ということかも知れません。いずれにしても月例会をベースにした会運営から、社会へのコミットメントに踏み出す一つの道筋が、独立採算による単発プロジェクトの実践ではないかと思えます。そうした企画の運営を通じて自分たちの力を知り、ノウハウを養っていくと。来たるべきNPO法人化に備えて。もちろん一発企画(=イベント)だけがNPOサロン2002が目指すべき方向性であるとは毛頭思

っていません。ただ、そういう企画力は大きな武器になりますよ、ということです」
これらについては、今後も継続して検討していくことにしたいと思います。

4) 月例会の様子はテープに記録する

記録することに関しては異論はありませんでしたが、その利用法については様々でした。

「サロンは自由に発言できるのがメリットである。しかしそのテープが外にできることはかえって発言数を減らしてしまうのではないか。発言が残ることに対するプレッシャーがある」

「希望を聞いてから人数で費用（実費、手間費）を割って送付してはどうでしょう。人気のない会はお高くなりますが」

これも継続して検討していきたいと思います。

これらをまとめると、現段階での結論は以下のようになります。

1. サロンの法人化について

時期尚早であるが、今後も検討を続ける(原案通り)。

サロン 2002 の将来を考えることは、この国のスポーツの将来を考えることに直結するし、行政や企業ではなく、肩書きなしの「市民」が中核を為す 21 世紀の社会をイメージする上でも重要なテーマと位置づけられる。法人化云々も含めて、今後とも継続的に取り上げていきたい。

2. 会員制について

会員制を論じる前に、会の目的・事業を明確にし、対外的に説明可能な状態にしておく必要がある。会員登録や年会費の徴収は、これらが明確化されてはじめて出てくることであって、現時点では時期尚早。しかしこれについてもサロンの法人化同様、継続的に検討を進める。そのためのプロジェクトチームを編成したい。名簿についてはもう少し意見をいただいてから判断する。

電子メールの保有は会員資格には含めないが、努力目標としたい。また、密度の濃い情報交換のために、サロン 2002 のメーリングリストを3月中を目標に試験的に開設したい(別紙参照)。

年会費は、現時点では徴収しないが、サロン 2002 の取り組む個々の事業(月例会が中心)は独立採算でいく(事業ごとに赤字を出さない)。

3. 月例会について

サロン 2002 の事業(活動)の中心は月例会。位置づけとしては、これまで通り、誰でも参加できる自由な情報交換の場としたい(原案どおり)。但し議論を深めるため、1回1テーマを原則とする(一つのテーマについて複数の発表者が出る場合もありうる)。「出張サロン」「学生サロン」も行ないたい。

今後とも継続していくために、2月の例会から参加費を徴収する。参加費は 1,000 円(性別・年齢問わず。定刻参加・遅刻参加問わず)。

一つのテーマに対して謝金 10,000 円を発表者へ(複数の発表者の場合はこれを分割する)、実費 10,000 円を事務局(主に中塚がやっている)へ支払う。実費 10,000 円の内訳は、通信費(FAX 送信にかかる経費がほとんど)@40 円×4枚(最近はこれぐらい送信している)×50 人(FAX 送信は今のところこれぐらい)=8,000 円/記録(主に堀さんがやっている。テープ代と録音にかかる人件費)1,000 円/用紙代等雑費 1,000 円。残りはとりあえずプールしておく。テープ起こし、事務局経費等については保留・継続検討。

以上

1900 年代最後の日を無事迎えることができました。

1999 年はサロン 2002 にとって飛躍の年でした。

1 月の月例会で取り上げた「サロン 2002 の今後」は、参加者の当事者意識の高さが感じられる場でした。NPO 法人化は「時期尚早」であり、「引き続き検討する」こととなりましたが、副産物として、月例会における参加費 1,000 円の徴収(発表者と事務局に 10,000 円ずつ経費支給)とメーリングリストの開設が為されました。改善すべき点は多々ありますが、組織の基盤づくりの第一歩となりました。

月例会は 12 回開催され、草サッカーからワールドカップまで、時にはサッカーから離れて、移植者のスポーツやハンドボールの話題など、幅広く取り上げられました。参加者も多様性を増し、関西や、ついにはドイツからも来るようになりました(ただ単に帰省していただけですが)。一つ間違えると訳の分からない会になりそうですが、そこは大丈夫。この国のサッカー/スポーツを何とかしようという熱い気持ちが強い絆となっているのです(ですからそういう気持ちがなくなったらどうぞおっしゃって下さい。「来る者拒まず、去る者追わず」です)。

各地にサロンの拠点ができ、独自の活動が始まったことも 1999 年の成果です。塩竈の“軽茶会”、新潟の“サロン 2002in にいがた”、名古屋の“サロン・ド・トウカイ”がそれです。本家サロンが地方へ出かける“出張サロン”も 7 月の新潟、12 月の掛川と 2 回開催することができました。下見に出かけた安比も含め、地元の方々との交流を通して、地方独自の課題に触れることができ、非常に有意義でした。また、スコットランドのスポーツ社会学者、H.F.ムアハウス氏との懇談の際はサロン 2002 が企画、あるいは主催者として、日本サッカー協会ができてにくい部分のサービスをフォローできたと感じています。サロンの国際デビューと言えるでしょう(ついでにいうと、韓国体育学会でもサロン 2002 についての質問が出ました。海の向こうでも注目されています)。

実技部門も、1 月の草サッカー大会にはじまり、フットサル大会が 3 回ほど開催されました。草ハンドボール大会もありましたね。これらはいずれも 2000 年以降も開催されます。楽しみにしておいて下さい。

こういった様々な活動が、「マルチスポーツクラブ」の事例として紹介されたのが、7 月のスポーツ産業学会です。筑波で開催される 2000 年の同学会大会では、サロンの皆様の英知を拝借することとなるでしょう。

「サロンのメジャー化」ということを数年前から言っていましたが、時代がサロンをメジャーな舞台に押し上げている様子が、今年 1 年を振り返るだけでも良くわかります。この組織を今後どうやっていくのかは、そのまま日本のスポーツ界の方向性の指針ともなるでしょう。以下の 4 点を軸に、皆さんもサロンの当事者として、ソーゾー(想像・創造)力を駆使してイメージをふくらませておいてください。

1. 続けるために…事務局機能の強化と財源の確保
2. 広げるために…広報=インターネットと出版活動/“出張サロン”と全国各地の“サロン 2002”
広がりに対するリスクマネジメント
3. 深めるために…メーリングリストの活用/サブグループの必要性/汗をかく事業
4. 活かすために…現場へのフィードバック/政策決定への関わり

今年 1 年かけて、サロンの今後を様々な角度から検討していきたいと思います。より良い組織にしたいと思いますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。2 月の例会で時間を取って検討する予定です(この報告でもところどころ「いかがでしょうか?」がありますが、具体的にはそれらを解決することが議論のきっかけとなるでしょう)。

1 月は女子サッカーの話題です。

＜サロン 2002 の現状 (1999.2月～1年間の活動報告)＞

1. 月例会

1999年2月例会から参加費 1,000 円を徴収することになり、発表者に謝金 10,000 円、事務局に通信費・雑費 10,000 円を支払うことで今日に至っている。

月例会収支(2000.1.25現在)

期 日	参加者数	参加費計	発表者謝金	事務局経費	残 金
1999.2.18.	22	22,000	花 田 10,000	中 塚 10,000	2,000
1999.3.17	18	18,000	両 角 0	中 塚 10,000	8,000
1999.4.15	19	19,000	両 角 0	中 塚 10,000	9,000
1999.5.18	28	28,000	浜 村 10,000	中 塚 10,000	8,000
1999.6.17	24	24,000	宇都宮 10,000	中 塚 10,000	4,000
1999.7.13	21	21,000	中 塚 10,000	中 塚 10,000	1,000
1999.8.27	15	15,000	安 藤 10,000	中 塚 10,000	-5,000
1999.9.22	14	14,000	香 西 10,000	中 塚 10,000	-6,000
1999.10.26	24	24,000	宇都宮 10,000	中 塚 10,000	4,000
1999.11.10	26	26,000	脇 田 10,000	中 塚 10,000	6,000
1999.12.20	22	22,000	仲 澤 10,000	中 塚 10,000	2,000
2000.1.25	29	29,000	小 林 10,000	中 塚 10,000	9,000
残金計					42,000

注1) 両角氏は「前例にしない」ことを条件に、10,000 円をサロンへ寄付された

注2) 2000.2.24 現在、電子メールで 168 名、FAXサービスでは 30 名の計 198 名に送信している。

2. メーリングリスト

松下徹氏（一橋大学大学院）を管理人としてメーリングリストが開設されたのが5月24日。2000.1.18 現在、参加者は 40 名、投稿総数は 118 件。なかなか活発化しないのは「面倒くさい」だけでなく、「目的がはっきりしない」「誰が参加しているのかわからないので意見が言いにくい」こともあるようである。

「2～3カ月経過したところで規約を見直す」ことになっていたが、経費負担の問題を含めて保留中。

3. ホームページ

メーリングリスト管理人の松下氏のご尽力により、「サロンの歴史」を参加者にみてもらう主旨で、以下のホームページが作られた。更新はほとんどされていない。

1999.9.4.松下氏のメーリングリストへの投稿より

>(前略) サロン2002のページ <http://www.geocities.co.jp/Colosseum/4490/>

・サロン2002の歴史 ・これまでの月例会のテーマ ・サロン2002メーリングリスト サポートページ という構成になっています。なかなか「しょぼい」作りになっていますが、ご容赦下さい。また、ジオシティ（無料のホームページ）を利用しているため、ややつながりにくい場合があるのでご注意下さい。

4. その他

- ・出張サロン2回 … 新潟(7月)、掛川(12月)
- ・草サッカー大会、フットサル大会など

<サロン 2002 の将来検討会報告>

2月中に表記検討会(飲み会含む)が2度開催された。検討会以外にも様々な方とこの件について直接またはメール等で意見交換することができた。2000年度の活動方針を含めてさらに検討し、3月の月例会までには意見をまとめ、月例会で報告・審議したい。

第1回検討会

日時：2000年2月5日(土)18:00頃(?)~23:00頃(?)

場所：日暮里駅前、ドトール階上の「和民」

参加者：加納樹里(中央大学)、加能裕一郎((株)トラップドア)、川井寿裕(文部省体育局体育課スポーツ振興投票準備室)、笹原勉(日揮)、高橋義雄(名古屋大学)、竹中嘉久(シド・ファイナル・アーツ)、中塚義実(筑波大学附属高校)、澤井氏(東京大学。特別参加)

概要：

1. サロンは「情報を得る」ための組織か、それとも「シュートを打つ」ところまでするのか

サロンはどのような活動を行うのか。現行のまま、サロンの活動は月例会の開催のみで、そこで得た人的ネットワークと情報は、それぞれの分野で活かしていただくという方向性が一つ。もう一つはサロンが何らかの事業主体となって、社会貢献的な活動を行っていく方向性である。

前者の場合は、“サロン 2002”の名前は表に出なくても良い。気がつけば、良い活動、良い判断の裏にはいつもサロンの人々の力添えがある。「そうか、君もサロンのメンバーか!」というような出会いが、良い活動の裏に必ずある。そういった地道な、しかし根を張った活動を志向するもので、良い意味で「サッカー/スポーツ・マフィア」、あるいは「シンジケート」となるというものである。

後者は、“サロン 2002”という看板を表に出しながら、良い活動に取り組む方向性である。これにも段階があって、例えば「月例会の開催」も一つの事業である。これは続けていきたい。次に、月例会の内容を外に向けて発信したい。これが例えば「ホームページの活用(今もあるが、情報のたれ流しを避けるためにほとんど更新されていない)」であったり、「サロン通信の発行(現行の報告を印刷物にしてより広い範囲に伝達する)」「『スポーツ春秋』の発刊(サロン通信では網羅できない会員の投稿や記事によって構成。今の、そしてこれからのサッカー/スポーツの方向性を探るもの。年2回一春と秋のみ一発刊)」などの広報活動に積極的に取り組むという段階もある。そしてさらに、サッカー/スポーツを対象にしているのだから、サッカー/スポーツの良い活動を行う主体になりたい。例えば、中塚がチェアマンとなっている「DUOリーグ(ユースサッカーリーグ)」の規模を拡大して、東京都全体、あるいは全国展開していこうとしたときに、個人では難しい、だからといって協会も手いっぱい、そこでその中間的な受け皿が必要となる。同様に、浜村氏が企画している草サッカーのイベント、堀さんが企画しているハンドボールのイベントなど、良い活動に対して、個人でも協会でもない、その中間の受け皿として機能していけないだろうかというものである。この受け皿のあり方は、市民活動の受け皿としてのNPOそのものといえる。

どちらの方向性が良いのかについて議論されたが、いろんな意見が出て、結局「サロンの目的は何か」に行き着いた。

2. サロンの目的は何か

3. どんな人に来てほしいのか

「人に説明するとき、どうしているか?」が切り口であった。紹介しにくい、どこまで広げていけばいいのかわからないという意見もあった。“同志”の集まりであるが、ではその際の“志”はどこにあるのか。「スポーツでもっと幸せな国を」「心豊かな人と国づくり」、どこかで聞いたような言葉だが、ゆるやかなまとまりであるとするならこんな感じかと思われる。「スポーツ」が柱であり、特に「サッカー」が中核となっている。

「サロン 2002 はもともとサッカーが好きで、サッカー界を何とかしたいと思っている人の集まりである。サッカーを中心にこれからも進めていくことが必要。種目間の競争を促すことも大切」とい

う意見や「いやいや、広くすべてのスポーツを対象とすべきである」などいろいろ出た。サロン 2002 以外にも、秦氏が事務局をされている「JASPO21」や、産官学の英知の結集を意図した「スポーツ産業学会」も、この国のスポーツを良くしていきたいと願う人の集まりである。それらどう共存し、または住み分けていくのか。あるいは大きくまとまった方がいいのか。

これもサロンのあり方と大いに関係する。

4. 2000 年度に具体的に組みたいこと

名簿は作りたい。年会費も徴収したい。そのためには目的と活動を明記したもの(規約)が必要か。このほかにもいろんな話が出た。

第 2 回検討会

日 時：2000 年 2 月 18 日(金)18:45 頃～21:30 頃(?)～その後はカリンカ

場 所：筑波大学附属高校体育教官室。21:30 以降はカリンカ

参加者：内田正人((株)ピーアンドディー)、鶴木恵介(横浜 F C ソシオ)、鈴木崇正(NEC クリエイティブ)、秦英之(アサヒビール・シルバースター)、両角晶仁(文部省スポーツ振興投票専門官)、中塚義実(筑波大学附属高校)

メールによる意見参加：井上俊也(NTT)、鶴木・秦両氏からもメーリングリストに投稿あり

概 要：

1. サロン 2002 の将来検討会の意義と性格について(中塚より)

「社心グループ」から「サロン 2002」へと移行し、日に日に“変化(進化)”を続けているこの会の発展過程そのものが、スポーツの発展を捉える上で大変興味深い事例である。検討した結果、現行どおりとなったとしても、基本的には問題ない。切羽詰まった状況下での議論ではないので、今後についての話し合いも、余裕を持って楽しみながら、気軽に意見を出していただきたい。

ただ、一つだけ解決せねばならないのは、「FAX 送信にかかる経費を月例会参加者から徴収している」矛盾の解消である。そしてこの点を出発点として、今後の方向性についての具体的な議論になるかもしれない。

2. 井上氏からのメール紹介(本人の了解を得ています)

(前略)まず、私自身「サロン」は前身の社心グループ時代の1996年3月にお茶の水女子大でスピーチを行ったことが最初のコンタクトでした。経緯を話すとその前年の暮れにスポーツ産業学会の忘年会が飯田橋であり、そのときに江口さんに声をかけられたのがきっかけです。

私自身が未熟だったということもありますが、非常にサロンの存在は私にとって「刺激」となり「自信」となるものでした。「刺激」というのは1994年夏に帰国してから、これといってプレゼンテーションなどをする機会、すなわち自分の考え方を整理する機会に恵まれていなかった私にチャンスが生まれたということです。「自信」というのはおこがましいかもしれませんが、サロンに集まっている人が鍛えられている筋肉がそれぞれ違い、自分が鍛えている筋肉は十分通じる、ということを実感できたからです。

私にとってはサロンは「若手の活動する研究者がさまざまな分野の英知を集めて日本サッカーの発展に寄与していく」ということで私の持っている「ささやかな英知」も役に立って「貢献している」という満足感と、サロンの後で繰り広げられる「サッカー談義」を楽しむ、という二つの喜びがあったわけです。

ところが、サロンから私が足を遠ざけることになる二つの参加者の変質が起こりました。(この二つについては北川さんと意見が一致しました)

まず、サロンという媒体を「貢献するもの」と考えるのではなく、これを「利用する、営利活動に使う」という存在が現れたことです。「普通の研究者」や「普通の先生」や「普通のサラリーマン」が「日本サッカーの貢献したい」と考えて集まっているのに、逆にこの場を利用するものがでてきたのです。以前サッカーは「宗教であり戦争である」と言いましたが、これは教会でみんながお祈りしているところや戦場で戦っている場で「弁当を売っている」ようなものです。(もちろん腹が減っては戦はできぬが)

14

それからもう一つはサッカー談義が中心になり、「お祈り」や「戦い」の部分がおろそかになり、「お祈りや戦争の後の食事会」に重点が置かれるようになってきたことです。「サッカーが好き」というだけの人たちとサッカー談義だけをするのならば別にサロンでなくてもいいわけです。

この二つの参加者の変質が私や北川さんがサロンに足を運ばなくなった理由です。昨年通産省の平田さんも同じようなことを言っていました(中略)。おそらく私と同じような理由でサロンを去った人も多く、私がサロンに初めてうかがった際の方はほとんど残っていないと思います。そんな中で毎月会合をマネジメントされている中塚さんのご苦勞をサポートしてあげたい、ということで簡単ですが自分の考え方をまとめました。

私の認識違いなどもあるかとは思いますが、ご容赦ください。それでは皆様にもよろしく。

3. サロン 2002—それぞれの関わり方と現状認識(各自の考えを述べる)

内田氏…2002年の招致活動の関係で、渡部氏の紹介。社心グループ時代(1995年度)から参加

鈴木氏…インターネットの関係で、湯浅氏の紹介。社心グループ時代(1995年度末)から参加

鷗木氏…横浜FC立ち上げ期、丁度NPOの話題のとき初参加。浜村氏の紹介(1999年1月～)

両角氏…サッカーくじの関係で、浜村氏や小島氏などの紹介(1999年2月～)

秦氏…JASPO21というサロンと同主旨の団体で知り合った松下氏の紹介(1999年8月～)

検討会に1時間だけしか参加できなかった鷗木氏は、サロンの魅力として「①熱意を持った人々、②何となくアカデミック、③カリンカでのばか話」を挙げ、「真剣にサッカーを考えることができた。頭の中が整理されていく」ことを述べた。「ももとは自分の勉強のため」に参加したサロンだが、自己研鑽とともに「人脈が広がった」。それが「自分の仕事にも役に立っている」というのが、議論に参加した全員の意見であった。自分の仕事に生かすかどうかについては、「サロンの情報や人脈を仕事に生かしているという点で、自分はサロンを利用している」(両角氏)との意見が多く、「利用しないのは節操の問題」(鈴木氏)であるとの見解に達した。

4. サロン 2002の目的と参加者(会員)の資格

自分自身がサロンに参加する目的ははっきりしているが、「サロンの目的がよくわからない」(内田氏)という意見が今回も出た。特に、研究者集団だった社心グループと比較した場合、サロン 2002のあいまいさを指摘する声が多い。

規約を作り、会員の範囲を明確にするとすると、他の団体との差別化=どこで住み分けるかという課題もある。秦氏が事務局をやっている JASPO21 という団体は、「基本的に日本のスポーツをより良くしようかと思ってる方々が集まり、議論しています。サロンと基本的に同じだと思います。(中略)違いを言うのであれば、サロンは、サッカーが好きであることが前提で、JASPO は、スポーツそのものが好きであることです。また、今後スポーツをいかに“ビジネス化”させるかに重点を置いています」(秦氏)。ではサロンは、サッカーにとどまっているべきなのだろうか、それともスポーツを前面に押し出すのか、あるいは「豊かなくらし」「より良い社会」などを唱えるべきだろうか…。

5. 2000年度の取り組み

以下の各事業についての取り組み方を話し合った。おおむね次のような傾向であった。

①会の目的を明確化し、会員制度を導入する → △~○ 年会費を徴収したい

②サロン 2002の名簿をつくる → ○ 希望者のみでも

③現行の「月例会報告」を「会報」の形で印刷物にして会員及び関係機関に郵送する → △~×

④ホームページを更新し(または新たに作り)、広く情報発信する → ◎ 是非

⑤『スポーツ春秋』なる出版物を作成し、世に訴えかける → △

「情報発信は明確でなければならない。すなわち、誰に対して何をいいたいのかを明確化しなければ、どういうメディアに載せるにしろ長続きしない」(鈴木氏)。「考えている人はみるだろうが、本当は、何も考えていない人に見てほしいし、働きかけていきたい」(内田氏)。

6. 今後の方向性

サロン2002の今後を考える上での“ものさし”が、両角氏から提示された(あくまでも“考え方”)。

第3回検討会

日時：2000年3月16日(金)19:15頃～21:30頃～その後はカリンカ

場所：筑波大学附属高校体育教官室。21:30以降はカリンカ

参加者：宇都宮徹彦(写真家)、香西武彦(本田技研)、島原裕司(頸草書房)、中塚義実(筑波大学附属高校)

メールによる意見参加：当日参加予定だった花田一成氏(キャノン)から意見が寄せられた(3.20)。また、安藤氏(3.13)、加納氏(3.7)からメールリストに投稿があった。鈴木氏(サッカークリック)と小緑・本多両氏(FC.JAPAN)の間では、インターネットが「わかっている人たちによる検討会」が行われた(後述)。

概要：

1. ここまでの議論の経緯と今後の手順の確認(中塚より)

1～2回の検討会での議論の内容と、第3回検討会の議題が確認された。なお、参加者にはあらかじめ案が送信されている。

1) サロン2002の“志”(会のゆるやかな目的)を明文化する

2) “志”に賛同した人に“会員”になっていただき“年会費”を徴収する

3) “会員名簿”を作成する

4) “ホームページ”や“機関(季刊)誌”をつくって広範囲に情報発信する

5) 目に見える具体的な“事業”には“プロジェクトチーム”をつくって取り組む

以上について検討する。27日のサロンでは、2000年度の進め方についての承認を得る形まで持っていきたい。基本的には2002年度までそのままいけるような形をとりたい。

2. サロン2002—それぞれの関わり方と現状認識(各自の考えを述べる)

1) 香西氏…堀さんの紹介(1998.11～)

社内でスポーツマネジメント事業部の立ち上げを考えていたときにサロン2002と出会う。当初は満足感があつたが、何度か来るうちにサロンとしての方向性がみえない—シュートを打つところまで至らないことに満足できなくなってきた。参加者も多様化し、ワイドショー的な部分で満足する人が増えてきたこともあるのではないか。カリンカでの談義がサッカー話に終わっている。年間のテーマを出すなど、方針を明確化すべきではないか。

今後の方向性として、NPO法人とともに、合資会社化も視野に入れて考えてもらいたい。

2) 島原氏…中塚関係者の紹介(1997春?～)

ポピュラー音楽学会の立ち上げ期に似ている。学会になる以前の揺籃期には、ミュージシャンやレコード業界の人が来ていたが、学会になるとそのようなパワーのある人たちが来なくなった。組織としてうまくできて、コアとして情熱ある人が運動し続けないと形骸化してしまう。

サロンの現状で言うと、比較的良く足を運んでいる人の中にも、研究・情動的関心で来ている人と、運動したい(働きかけたい)人に2分化されている。研究会的な関心で来ている人は、質の高い議論ができればいい。運動したい人になると、どこかに着地しなければならない。

リーダーの意志を尊重したい。リーダーの魅力で人が集まっている。

3) 宇都宮氏…島原氏の紹介(1997秋～)

サロンに参加したのは会社をやめてユーゴへ行って帰ってきた頃で、まだ何もアウトプットを出していない時。サロンがなかったら生まれてこなかったものが沢山ある。むしろ、サロンを経由して生まれてきたものが大部分。その意味では、サロンを一番利用しているのかもしれない。

フリーで仕事をやっていると、その業界の人としか会わない。年齢・立場関係なしにサッカーの話ができることが貴重。ギブアンドテイクの関係を築くことができる大人の集まりであり、ある大人の節度を持っていればOKだと思う。

月例会の間口は広いほうが良い。学生・院生の育成も大切。サロンは教会であり、バブである。

3. ディスカッション

あらかじめ提示された議題を中心に、様々な意見が交換された。おおむね、1)～3)については「必

要」とのことで一致したが、“志”には、サッカーだけでなくスポーツ全般を対象とすることや、“会員”の資格と“年会費”を決定すること、“名簿”を作る人を決めることなどが実務上の課題として残った。

情報発信については、ホームページを鈴木氏(サッカークリック)や本多氏(FCJAPAN)のノウハウを活かして作成するが、ターゲットをどこに絞るか、それとも絞らないかについては保留。会報を印刷物として郵送することや、季刊誌をつくることについても保留。

月例会は、今まで通り、いろいろな人がやってくる情報交換の場として位置づける。何らかの方向性を打ち出したい場合、あるいは事業として取り組みたい場合は、独自にプロジェクトチームを作って対応する。具体的には、「ワールドカップ開催自治体評価プロジェクト」「写真展:サポーター新世紀プロジェクト」「大人のためのサッカー研究会プロジェクト」等が考えられる。以上

Date: Fri, 10 Mar 2000 12:20:19 +0900

From: "SUZUKI, Takamasa" <tm-suzuki@msj.biglobe.ne.jp>

Subject: わかってる人たちによる相談

中塚義実 様 NECクリエイティブ・鈴木です。

昨日、クラブハウスの小緑さん、細谷さんに弊社にお越しいただき、サロンのWEB活用を含めた、いろいろなお話をさせていただきました。その結果、小緑さんと細谷さんは「わかってる人」だということがわかりました。私は必ずしも「わかってる人」じゃなかったけど・・・。

そこでの意見を総合しますと、だいたい以下のような感じになると思います。足りないところは補足願います。(>小緑さん、細谷さん)

1. 大前提

サロンがホームページを開く、開かない、あるいはどのような対象にどのような内容の情報を発信するかなどは、すべて今後のサロンがどのような組織になるかによる。いま進んでいる議論、または今月27日に予定されている議論の場でどのように決まっていくかを見守りながら考えなければならぬ。インターネットとは情報をやりとりする媒体に過ぎない。いわば「道具」であって、サロンが進むべき道、方針が決まって初めて道具の使い方が決まる。

2. 想定される内容など

いまのところ、あまり具体的なイメージはないが、サロンがいままでのような「研究成果の発表の場」「情報交流の場」という性格のままではよければ、それを魅力的に公開するようなページをつくるだけでよい。しかし、サロンが何らかの社会的機能を果たす組織としてスタートするならば、情報発信の方法や、情報を受け取った人たちとのコミュニケーションのあり方、コミュニティの作り方など、とても多様な形が考えられるだろう。「誰に対し、何をするのか」が明確になれば、ホームページの形も自ずと見えてくると思う(関西、新潟、東海の各サロンとの連携なども含め)。大切なことは、「やり始めたら止まらない」ということ。ホームページは定期的に情報を更新し続けなければやる意味がない。見ている人に「この前見たときと全然変わってない」と思われたらアウト。

3. 協力体制

クラブハウス(FC JAPAN)もサッカークリックも、サロン2002のホームページ制作、その他周辺業務について協力させていただく。それぞれに得意分野があるはずなので、それがサロンのためにうまく生かせればよいと思う。例えば、「読み物」を中心としたサッカークリックと、サッカーを中心にしたコミュニティ作りに実績のあるサッカーボーイ、というふうに。両者に、営業テリトリーを奪い合うような感覚は一切ない。極めてオープンに、フラットに、情報交換をしながら協力できる。また、費用的になるべく安くやらなければならないのなら、それに見合った運営体制を考えなければならない。これについてはサロンの方向性が決まる段階で、あらためて検討を要する。以上

鈴木崇正 SUZUKI, Takamasa

NECクリエイティブ 出版部

これらを踏まえて大ざっぱな案を作ってみましたので、別便をご確認下さい。中塚義実

サロン2002：Ver.2000～2001(案)

サロンの今後について、1月から検討会を3回行いました。また、メーリングリストや直接いただいたメールなどを通して様々なご意見をいただきました。多くの方が「当事者」としてこの問題を捉え、より良い方向性を探る作業に、楽しみを感じながら関わっていただけたこと、心より感謝いたします。「さすがはサロン2002」と改めて感じています。これまでいただいたご意見を踏まえながら、中塚なりに方向性を示してみましたのでご一読下さい。まだ、「たたき台」の段階です。27日にはしっかりしたものを提示して、月例会での議論を経て、4月当初には「完成版」をお送りして、2000～2002年度の活動に取り組みたいと思います。27日に参加できない方はもちろんのこと、何かお気づきの点がありましたら、お早めにメール等でご意見をお寄せ下さい。

1. サロンの開放性

まず、そもそも「社心グループ」が「サロン」となった時点(1997年度)で、この会には開放性という大きな特徴が付与されたと考えます。そこは「情報交換」「人との出会い」を通しての「自己啓発」の場となりました。サロンを「松下村塾」に喩えられた方がありましたが、「平成の松下村塾」としての性格は持ち続けたいと思います。サロンに参加することによって結果的に仕事に影響(好影響ですよ)が及びのは当然です。参加した個人は、いい意味でサロンを利用すれば良いのではないのでしょうか。

開放性が高まるにつれ、「研究会」としての性格は多少薄れたかもしれませんが、それでも情報の質、精度は非常に高いと感じています。ただ問題は、ディスカッションが時として自己PRの場となり、立場を抜きに来ているにもかかわらず、立場を表明する場になっていることがある点です。月例会の位置づけが、参加者にとって異なることが一因でしょう。月例会そのものがサロン2002です(月例会を運営する組織のこともサロン2002と呼んでいます)。月例会の位置づけを明確にする必要があるでしょう。

2. サロンの社会性

開放性と同時に、社会性＝社会に対して働きかける要素がもっとあって良いと思います。しかし、これだけ多様化してくると、組織としての意思決定が困難です。まずは意思決定に参加できる会員の範囲を明確化し、その上で、関心を共有する人がプロジェクトチームをつくって社会に対してアピールしていく形をとりたいと思います。サロン2002そのもののNPO法人化も視野に入れていますが、むしろ各プロジェクトが事業母体として独立していく方向性が現実的だと思います。

将来的に、「サロン2002という名の月例会」が法人となることはあり得ませんが、「月例会を運営するサロン2002という組織」がNPO法人となる可能性は探り続けたいと思います。

形はともあれ、サロン2002は「平成の坂本龍馬」としての機能を果たしていくつもりです。

3. サロンの組織力向上と自己負担

この通信は、210名の方にお送りしています。ついにFIFAの加盟国数を超えました。内訳はメール(181名)及びFAX(29名)です。これだけの組織を運営する上で、現在のような「個人商店」では維持管理に無理があります。月例会参加費から中塚が事務局経費として頂戴している10,000円はすべて通信費に消え、今回のように通信頻度が高い月は赤字となります。好きでやっているもので別にかまわないのですが、逆に皆さんは「それでは困る」だろうと思いますし、私も、「これではイカン」と思います。また、本業でやっているわけではないので、だからこそ時間あたりの多少の対価は必要だと考えています。事務局経費を、時間あたり1,000円程度、皆で負担することが必要でしょう。

そのような形をつくってから、事務局としての仕事は分担してもらおうと考えています。費用の面で負担していただくだけでなく、皆が少しずつ、何らかの仕事を負うことも覚悟していただかなくてはなりません。このメールを読んでいるあなたに、「名簿作りやってください」という声がかかるかも知れません。そのことを覚悟した上で、会のメンバーになってもらいたいと思います。メンバーになるということはそういうことです。

実際は、依頼されるのを待つのでなく、「手伝わせてほしい」という申し出があることを期待しています。サロン2002は「ボランティアの実験場」でもあります。

以上の考え方を踏まえて、“志”“会員”“活動”の案をつくってみました。全体についてご意見いただきたいのですが、< >の中については特にご意見下さい。

サロン 2002 の “志” (案)

サロン 2002 は、サッカー・スポーツを文化として日本に根づかせたいと考える人たちのゆるやかなネットワークです。年齢や性別、職業や専門分野を越えて集まった私たちは、サッカー・スポーツを通して 21 世紀の “ゆたかなくらしづくり” を目指すという共通の “志” を持っています。

2002 年 FIFA ワールドカップは大きな節目であると認識しています。国内外の様々な人々と協力しながら、この世界的なイベントを “成功” に導きたいと考えます。

同時に、2002 年 FIFA ワールドカップ以降の “ゆたかなくらしづくり” を考え、できることから始めていきます。

全国各地にサロンの輪を広げ、地域や分野の壁を越えた横のネットワークを築き上げることによって、サロン 2002 の活動は 21 世紀を形作る大きなムーブメントとなるのです。

サロン 2002 の “会員” (案)

上記の “志” に賛同した方なら誰でも、一定の手続きを経て “会員” となることができます。但し、会員は “Take” だけでなく、社会に対して、またサロン 2002 に対して何が “Give” できるかを常に考え、 “Give and Take” の姿勢で入会して下さい。短期的な成果は求めません。長い目を見た “Give and Take” の関係が成り立っていれば良いのです(学生には即座のアウトプットは無理かもしれないが、いずれ何らかの形で貢献してもらいたい)。

“会員” は、年度ごとに、以下の方法で登録手続きを取って下さい。

1. 登録申請

＜会員となることができるのは、自立した個人である。名簿の原稿ともなる以下の事項を中塚まで電子メールまたは FAX で 4 月中に送信する。中塚は名簿担当者に転送。5 月中に担当者は名簿を作成し、会員に郵送する。実費及び人件費(1 時間あたり 1,000 円を目安に)を計上する＞

＜氏名/現在の職業/サッカー・スポーツとの関わり/住所/電話番号/電子メールアドレス/現在関心を持っているテーマ/その他自己 PR＞

＜会員はいつでも受け付けるが、年度単位で更新しなければならない＞

2. 年会費納入

＜サロン 2002 の銀行口座へ年会費を振り込む。年会費は一口 2,000 円。何口でも可。但し、受けられるサービスは変わらない＞。

3. 会員のメリット

1) 月例会案内(サロン通信) が直接電子メールで届く。メールのない方は FAX 送信。

2) 会員名簿が届けられる(郵送)

3) 希望すれば、サロン・メーリングリストに参加できる

4) その他

何らかのプロジェクトが立ち上げられたときにメンバーとなることのできる等

4. 年会費の使い道

＜会計担当が実務を行うとともに、以下の使い方について個々に対応する＞

1) 事務局経費…通信費(特に FAX 送信にかかる経費)、人件費(1 時間 1,000 円で計算)

2) 出張サロンへの補助

3) 各種プロジェクトへの補助

サロン 2002 の “活動” (案)

1. 月例会

<月 1 回行われる月例会がサロン 2002 そのものであるが、月例会を運営する組織のこともサロン 2002 と呼んでいます>。ここは「情報交換の場」であり「人との出会いの場」です。月例会の運営は、参加費 1,000 円をもとにした独立採算制。<参加費は発表者も支払います>。<支出は、発表者謝金(経費も含む)10,000 円、報告書作成経費 5,000 円、会場使用料 5,000 円とし、残りは全体会計に納めます。筑波大学附属高校で月例会を行った場合、会場使用料がかからないので、この部分は積み立て、合宿などに利用します。通信費は全体会計から支出します>。

月例会のテーマは会員が持ち回りで出しあいます。研究成果、実践報告だけでなく、困っていることや何とかしたいと思っていることなど、テーマは何でもかまいません。話題提供者にとって月例会は「自己PRの場」でもあります。

参加者は「肩書や立場」を超えて、一個人として参加してください。自己PRや自分の仕事のネタ探しが主目的の参加はお断りです。もちろん、結果的に「肩書や立場」の部分に活かされることは全く問題ありません。サロン 2002 で得たことはどんどん社会に還元してください。

多くの方がディスカッションに参加できるように、発言はできるだけ簡潔にお願いします。話題提供者にとって少しでもプラスになるような建設的な意見・情報が飛び交う月例会が理想です。

テーマにもよりますが、月例会は基本的に、何らかの結論を出すための場ではありません。さらに検討を進めて何らかの結論を求めたい方(シュートを打ちたい方)は、プロジェクトチームをつくって取り組んでください。

月例会の内容は、通信を通して会員の皆様にお伝えするとともに、ホームページにも<一部>掲載します。そのための報告書は、<発表者自身か事務局、あるいは希望者によって作成されます。作成者には 5,000 円を支払います>。

2. プロジェクトチーム

会員は誰でもプロジェクトを立ち上げることができます。プロジェクトは基本的には独立採算、自主運営で進めてもらいますが、会員の合意が得られれば、全体プロジェクトに発展することもあります。<会費の一部をプロジェクト活性化のために活用することもあります>。

プロジェクトのうちいくつかは、サロン 2002 から独立して、法人格を取得して活動を展開することになるかも知れません。その場合、サロン 2002 は最大の理解者としてサポートします。

3. 合宿

通常の月例会とは異なる場所、時間帯で「合宿」を行います。参加者の自己負担で行われます。

4. 出張

全国各地へサロン 2002 のメンバーが向かいに行く活動を“出張サロン”と呼び、合宿と区別します。<出張サロンの経費は受け入れ側またはサロン 2002 が負担します>。2000 年度以降は“出張サロン”を積極的に行いたいと考えます。

5. 情報発信

会員へは、毎月送られてくる通信を通して月例会の内容、その他各種情報が手元に届きます。また、会員相互の情報交換を密にするため、メーリングリストがあります。公式メーリングリストには、会員なら誰でも申し込むことができます。メーリングリストの管理費は会費から出します。

サロン 2002 は 4 月からホームページを持ちます。<ホームページ上では月例会の内容紹介とともに、プロジェクト毎のコーナーを設け、適宜更新していきます。この他にもいくつかのコーナーを設けていきたいと考えます>。

<いずれはサロン 2002 の活動を刊行物にして出版したいと考えます>が、現段階では未定です。

以上